

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	✓

活動団体名：多賀町

活動地域：多賀町大滝地域

活動におけるテーマ

『大滝の地域環境に育まれた、人と人とのつながり、人と自然とのつながりを未来に！』

活動団体および活動地域の紹介

【多賀町の人口・地勢】（令和2年国勢調査）

人口 7,274人 世帯数 2,506世帯

面積 135.77km²

● 滋賀県湖東地域に所在し、町面積の約86%を占める広大な山林では、杉、檜、松などが美林を形成し、その良質材をはじめ、その他の各種林産物が搬出されている。また、各河川の流域に発達した耕地は、米、麦、そばなど穀類の生産のほか、根菜類の栽培に適している。お多賀さんの名で親しまれている多賀大社が存在し、多くの参拝客が全国から訪れている。

● 町ホームページ

<https://www/town.taga.lg.jp>



多賀大社



そば畑



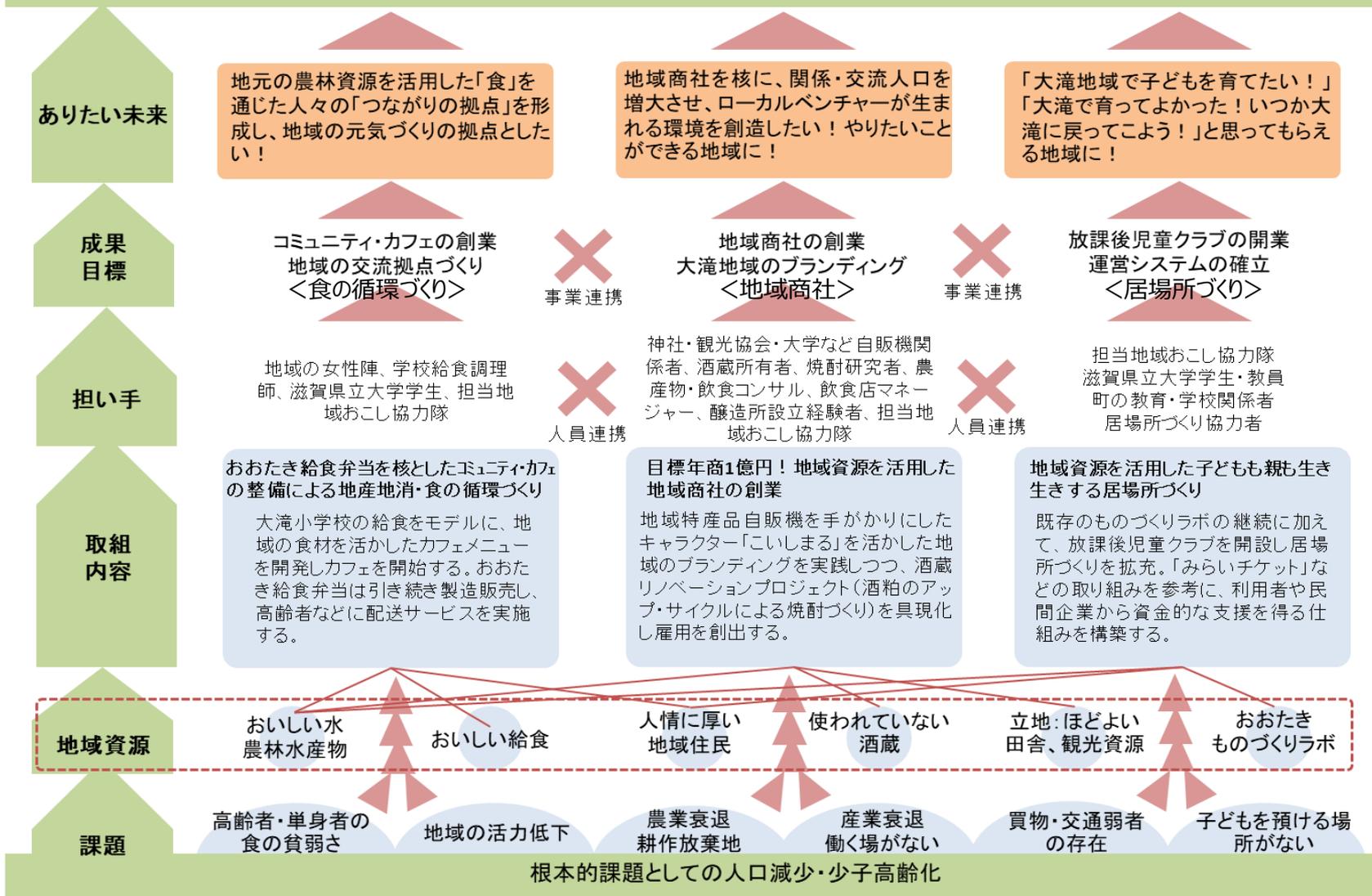
地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

2023地域版マングラ: 多賀町大滝地域

多賀町

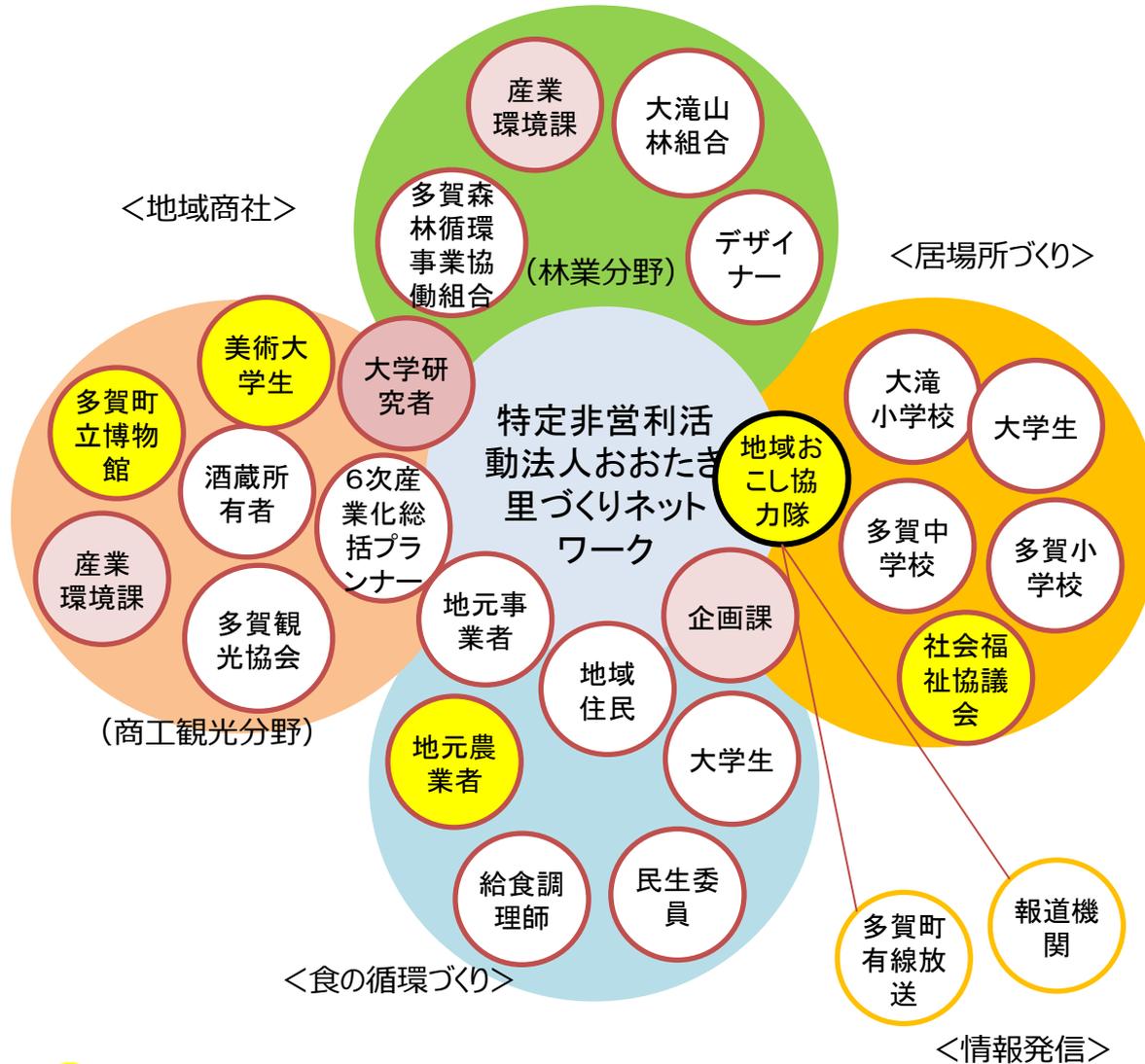
ビジョン: 大滝の地域環境に育まれた、人と人とのつながり、人と自然とのつながりを未来に!

方針=環境: 豊かな**自然環境の保全・活用**、社会: 育まれた**つながり・文化の継承・活用**、経済: 地域資源を活かした**雇用の創造**



現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

現状の地域プラットフォームのイメージ



【地域プラットフォームの変化】

地域おこし協力隊が創る関係者との連携強化

①食の発信（おおたき給食弁当）では、地元農業者との連携ができた。

②居場所づくり（子どものモノづくりラボ）では小・中学校や大学生と協力体制ができた。

さらに、モノづくりで林業関係事業者と連携ができた。

③地域商社では、美術大学とグッズデザインの協力体制ができた。

コンテンツについて観光協会やステークホルダーと連携強化ができた。

取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

【人づくり】

- ・配送・移送サービスを担う人材
- ・子どもの見守りに関する経験豊富な人材
- ・リーダーの養成
- ・若者世代の参画

【ノウハウ】

- ・カフェ経営に関するノウハウ
- ・子どもの居場所づくりに関するノウハウ
- ・地域商社運営に関するノウハウ

【取組全体を通しての成果】

- ・住民がやりたいことが実現できる環境が整備できた。
- ・協力しようと思っただけの方も増え、地域の一体感を感じることができた。
- ・関心を持つ地域外の方の参画も増えた。

【活動資金の確保】

- ・収益を得られる事業がない
- ・資金調達(会費、寄付金、出資金)ができていない

【情報発信】

- ・価値を伝えられていない。
- ・ネームバリュー・ブランドイメージに関する戦略が不明瞭

活動における今後の展望

【事業化支援】

①元気づくりの拠点整備

今年度実施したおおたき給食弁当製造の経験を活かし、地域の高齢者や若者、地域外の人たちが交流できるコミュニティ・カフェのオープンに向けた支援を行う。

②地域資源を活用した地域商社の創業

地域の特産品自動販売機を第一歩として、更なる商品開発やブランディングの指導を受け、地域商社を実践している現場へ視察し、ノウハウを得る。

③子どもの居場所づくり

今年度実施したモノづくりラボを継続、発展させた放課後児童クラブの開設に向けた支援を行う。

【プラットフォームの拡大】

更なるステークホルダーを巻き込む（地域金融機関、ベンチャーキャピタル、地元企業、地元営農組合など）